

～日本の食文化を守る～

H29

38

食文化

枕崎
鯉節

昭和六十年十月二十六日
創立五十周年記念



枕崎水産加工業協同組合

枕崎青鯉会

(財)食品産業センター認定

本場の
本物

厳選原料・伝統の味
www.honbamon.jp

※ゆでる小屋→いでの小屋(枕崎弁)→いでごや

・一年間を振り返り

青鯉会会長 松田 章三



今年一年間、会員の皆様並びに関係各位の皆様、青鯉会の活動にご理解ご協

力いただき誠にありがとうございました。

青鯉会会長として四月からスタートしました。

食育活動では、市内の幼稚園・小学校バザー・森病院バザー等で鯉節製造工程の説明や鯉節を自分で削ってもらい茶節にして飲んでもらいました。今年には会長として出来るだけ食育活動に参加しました。どの食育も子供たちは興味津々で、鯉節削りでは楽しそうに一生懸命頑張る姿が印象的でした。今年には、「枕崎鯉節」の広報活動として参加する毎年恒例の枕崎港まつり「きばらん海」が台風の為中止になりました。祭りは中止になりましたが、祭り担当委員会の皆さんは当日の段取や無料配布の料理の試食・準備等お疲れ様でした。花火大会は十二月三十一日に延期ということですので楽しみにしています。

来年一月には全鯉青大阪大会・研修旅行、二月にはフランス視察研修旅行・食育活動など計画がありますので、今後も皆様のご協力をよろしくお願いします。

昨今の我々鯉節業界は、鯉・青物の原料価格高騰などで厳しい状況が続いております。こういう時こそ、皆様の若い力で業界を盛り上げて行きましょう。

最後になりましたが、次年度の青鯉会の更なる発展を期待しまして、ご挨拶とさせていただきます。

・未来を創造

枕崎水産加工業協同組合 代表理事組合長 西村 協



青鯉会会員の皆様方には、かねてより組合運営に対し多大なるご協力をいただき心より感謝申し上げます。また、各イベントへの参加や枕崎鯉節の広報活動などにも積極的に参加いただき、地域振興にも大きく貢献されており無くてはならない存在となっております。これらの取組については、会長をはじめ会員の

の皆様方のご協力の賜物と厚く敬意を表する次第です。

さて、カツオ価格は世界的な需要拡大を背景に、この一年高値で推移しながら高止まりした状態が続いており、水産資源の争奪戦は一層強まることが予想されます。一方、製品価格は今秋から値上げされたものの、人口減少、食生活の多様化など様々な課題もあり、鯉節の需要は大きく伸張するよう環境にはないように思われます。そのため、組合ウェブサイト、英語版構築や首都圏の大学と連携した食育授業を実施するなど、枕崎鯉節の情報発信を強化しながら基幹産業としての役割を果たしていきたいと考えています。

枕崎漁港は平成二十三年に策定された枕崎地区高度衛生管理基本計画に基づき、高度衛生管理型荷捌き所が平成二十八年四月から供用開始となり、枕崎漁港を利用する生産者、卸売業者、水産加工業者等においては、衛生管理対策の機運が高まってきています。また、枕崎漁港で取扱いされる水産物の安全・安心の確保は重要な課題と位置づけられ、このたび高度衛生管理基本計画が変更されることになりました。これまでの基本計画が変更されることにより、青物や

沿岸物を取扱う水揚げ荷捌き施設だけでなく、それらに付帯する陸揚げ岸壁及び泊地が高度衛生管理エリアに追加されました。このことは地域の基幹産業である水産業の振興だけでなく、地域経済の活性化にも大きく貢献するものであり、活力ある枕崎鯉節の将来を描くには極めて重要な取組であると考えます。これからは青鯉会の皆様と関係するすべての方々が、それらの取組に対し認識と誇りを持って立ち向かうことが、枕崎鯉節の魅力ある未来を創造することに繋がると確信します。

青鯉会の皆様には、日本一の産地「枕崎」を誇りに、会員が丸となって強力な連携のもと、未来に向け邁進されることを心から強く期待しております。そして、皆様の力で美味しい「枕崎鯉節」を生産していくことを使命とし、更なる地域ブランドの強化にご尽力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

最後に、青鯉会の皆様方にとって、来る年が良い年でありまうお祈り申し上げます。



起振総意

枕崎市漁業協同組合
代表理事組合長 上野 新作



青鯉会会員の皆様にはかねてより当組合事業につきまして、ご支援・ご協力を賜り、心より感謝し、厚く御礼申し上げます。また、地域活動や県内外への情報発信など積極的に取り組まれている姿を拝見致し、頼もしくもあり、また、非常に心強く感じているところでございます。

ご周知のとおり『和食』が平成二十五年十二月にユネスコの無形文化遺産に登録されもうすぐ四年が経過しようとしております。日本には春夏秋冬の美しい四季があり、旬の物を旬の時期に味わう。また、器にも凝り、見た目にも素晴らしい、文字通り「料理を愛でる」のが骨頂であります。全国から取り寄せることが可能となった魚・肉・野菜などの食材も豊富で、品質や衛生管理面においても、それは世界各国が認める水準であることは言うまでもありません。しかし、この華やかな

舞台の基で、「縁の下の力持ち」的な存在である食材も数多くございます。その中でも『かつおぶしは、和食を支える代表的な食材である』と言っても過言ではないでしょう。これは日頃の皆様の仕事に対する努力・精進の賜物であり、また、昨今、端末機器の目まぐるしい発達とともに情報通信の拡散速度も速くなり、生産量日本一の枕崎かつおぶしはその名を全国に轟かせ、あたたかい御飯の上に盛った花かつおのように表舞台で華麗に舞っているかのように思えます。この輝かしい枕崎かつおぶしの礎を築いてこられた先人諸先輩方の尽力も忘れてはならないと私自身常に思っており、そこには漁業関係者のみならず、枕崎人みなが地域の繁栄を願い頑張ってきた結果ではないでしょうか。

『ローカル和食』というのを稀に耳にしますが、料亭や割烹で食される華やかな日本食ではなく、家庭の食卓で普段から食べられている地域食材を使用した煮しめや和惣菜のことをいい、ここでもかつおぶしが使われる率が高いと言われております。

現代人の魚ばなれや和食ばなれが叫ばれておりますが、国内外を問わず、まだまだ、その需要拡大

の可能性は秘めております。当組合としても、この可能性に応えるべく、大型船入港のための漁港整備や皆様の要望する原料確保に役員一丸となり心気を奮い立たせて精励し、地域基幹産業として青鯉会の皆様・水産加工業協同組合様と共に枕崎を繁栄させていけるよう邁進致す所存でございます。最後になりましたが、青鯉会の皆様方のご健勝と枕崎鯉節の更なる繁栄を祈念して挨拶といたします。

「かつお節」を取り巻く現状と未来

枕崎市長

青鯉会会員の皆さまには、日頃より市の施策に対しご理解とご協力をいただき心より感謝申し上げます。かつお節の普及啓発活動はもちろんのこと、それにとどまらず、様々なイベントでの活動や子どもたちへの教育活動を行っている皆さまを見て、行政としても心強く、また、私たちも更に頑張らなければと思うところであります。さて、昨年の枕崎について振り返りますと、天候に泣かされた一年であったと感じています。一大イベントである「さつま黒潮さばらん海枕崎港まつり」や「まくらざき秋の市」などの様々なイベントが台風の接近により中止となり、会員の皆さまのイベントでの活躍の場も限定されてしまったものと感じております。

また、昨年は本市と北海道の稚内市が、友好都市盟約を締結してから五周年を迎える年となりました。そこで、五周年記念事業として両市の市民による訪問事業などを行いました。この友好の基盤として、両市にそれぞれコンカツプロジェクト協議会というものがあります。この協議会では、本市の特産であるかつお節と稚内市の特産である利尻昆布の「昆鯉（コンカツ）」を通じた交流をしており、本市においても昆布とかつお節を使用した昆鯉（コンカツ）に、関係する料理や商品が多数販売されております。このことについても、本市の特産であるかつお節があつてのことであり、会員の皆さまの日頃の努力の賜物と感じております。

しかし、かつお節を取り巻く環境は近年変化してきていると感じており、カツオの漁場である中西部太平洋における海外巻き網船の入漁料の高騰に加え、不良の状況が続く、浜値も高値で推移していると聞いております。このようなことから冷凍カツオの安定供給については、今後、更にコンテナ調達が進んでいくことが想定され、今後、枕崎漁港に整備される荷さばき所に併せてコンテナによるカツオの荷さばきを行うコンテナ取扱施設の整備を進めていかなければならないと考えています。この整備については、関係団体で構成する協議会を立ち上げ、国会議員の方にも協力をいただきながら、国や県にも要望活動を行っており、実現に向け歩みだしているところ

です。

また、かつお節の海外展開については、一昨年には(株)枕崎フランス鯉節によりフランスにおいてかつお節製造工場が稼働を開始しましたが、順調に生産され、会員の皆さまの一部の方も近々視察に行くという聞いております。この点についてもうれしく感じており、国内のみならず、海外へも視野を広げようとしている生産者の皆さまがいらつしやるということが心強く感じます。

本場の本物「枕崎鯉節」が日本のみならず、世界のブランドとして確立されることを期待し、応援しております。

最後に、青鯉会の皆さまと枕崎鯉節に関わる全ての皆さまにとって良い年となることを祈念して挨拶とさせていただきます。



カツくん (カツアシカツくん)
カコちゃん (カツアシカツコちゃん)
青鯉会
キャラクター

平成29年度 青鯉会事業報告

1月10日 / 青鯉会新年会

1月22日 / 第40回枕崎新春かつお ジョギング大会



一月二十二日(日)に行われた枕崎新春かつおジョギング大会にて、オリンピック・男子マラソン、カンボジア代表で、枕崎鯉節大使である猫ひろしさんと青鯉会のコラボ企画として、給水ポイントでの出汁のふるまいと、かつおぶし削り体験を行いました。

当日は、雨が降っていたこともあり、「温まるー」「美味しいー」と多くのランナーさんに好評の声をいただきました。

足を止めて、出汁を飲む方、かつおぶしを削る方、たくさんの方々に楽しんでいただきました。

他のマラソン大会にはない、枕崎らしいおもてなしができました。

1月28日 / 全青鯉会・鹿児島大会

第42回 全国鯉節類青年連絡協議会 鹿児島大会

- 開催日 平成29年1月28日(土)
- 受付 11時45分～
- 会場 城山観光ホテル
- 大会スローガン 「だし文化 ～新たな魅力を節技発見！」

平成二十九年一月二十八日(土)、城山観光ホテルのアメジストホール鳳凰にて第四十二回全国鯉節類青年連絡協議会・鹿児島大会が開催されました。山川地区青年会の

主管で、枕崎地区からも青鯨会会員二十一名が式典に出席しました。式典後には鹿児島女子短期大学の住澤知之教授を講師に「鯨節の健康に及ぼす機能性」というテーマで講演が行われました。質問や意見なども多く、内容の濃い有益な楽しい講演となりました。

次回四十三回大会は「たっぷり笑って考えて〜日本の文化のかつお節〜」を大会スローガンに平成三十年一月二十七日(土)、大阪市のホテル阪神にて開催されます。

2月10日／古殿保育所(食育)



二〇一六年度、枕崎青鯨会の食育事業範囲を南薩地区に拡大し、南九州市の古殿保育所で執り行いました。

鯨節製造説明、削り体験、クイズ大会で鯨節を初めてみる子供たちも多く大盛況に終わりました。



3月4・5日／鹿児島マラソン

2017



三月四・五日、第二回鹿児島マラソンが行われました。今年も青鯨会からランナーの方々に茶節と削りパックを振る舞いました。

当日は雨も降り、ランナーにとっては厳しいコンディションでしたが、ゴールあとの温かい茶節に「これは嬉しい」「温まる」など好評な言葉を頂きました。



4月6日／青鯨会通常総会

5月4・5日／かつおまつり



5月13日／全青鯨会代議員会議 NCプラザにて、オブザーバーとして参加。

6月7日／枕崎幼稚園(食育)





9月15日 / 枕崎産地入札即売会



11月12日 / 森病院バザー (食育)

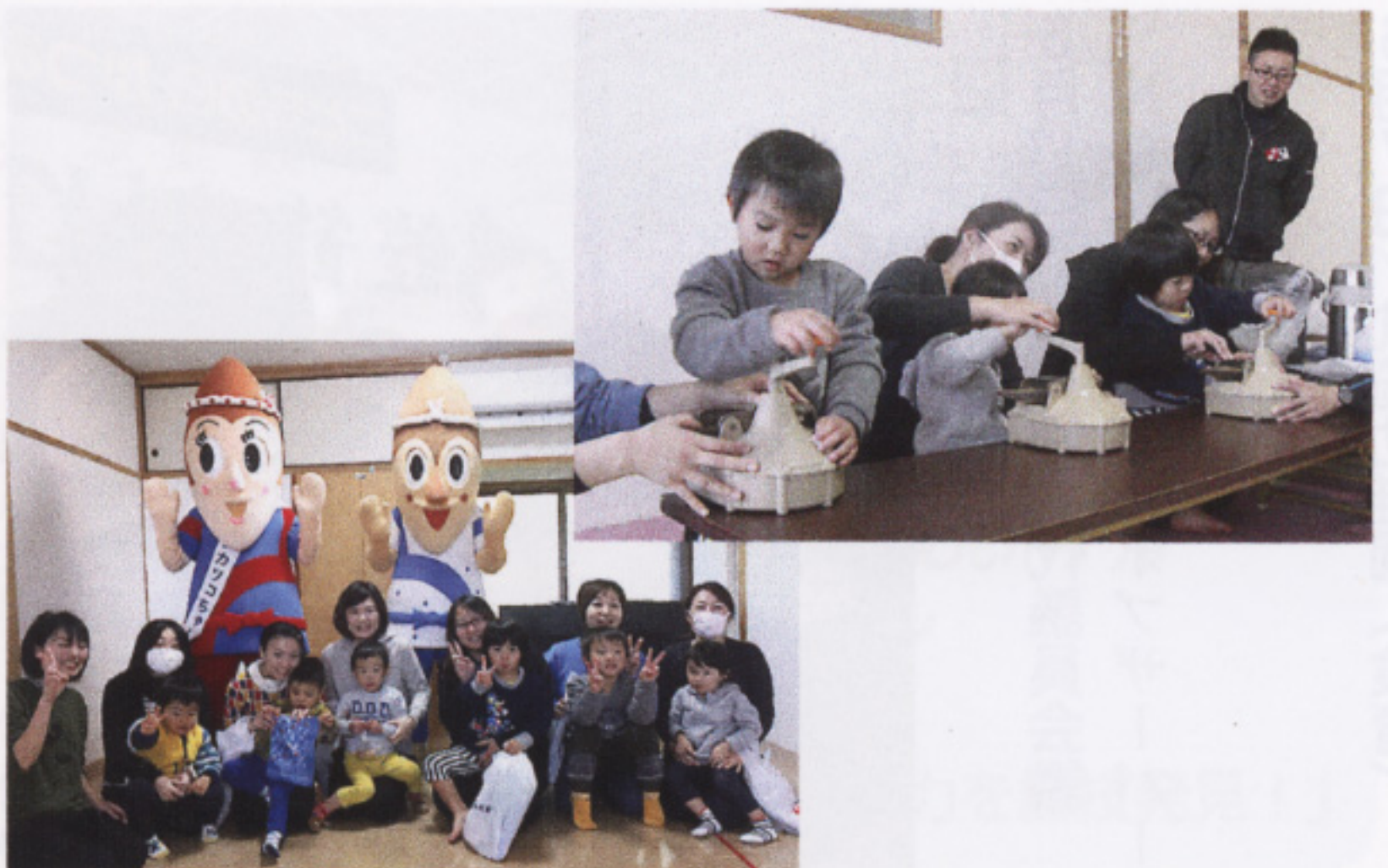
10月7~9日 / 若鯉会メンバー研修旅行 (金沢)

平成二九年九月十五日金曜日、第七十二回さつま鯉産地入札即売会が枕崎地区で行われました。昨今の出品状況は全盛期の半分以下ではありますが、価格の乱高下は少ない状況でした。産地を盛り上げる気概を持って組合・青鯉会・組合員が運営に携わり、今年もご盛会に終わることが出来ました。

枕崎小学校バザーにて削り体験、茶節の振る舞いを行いました。小雨の中、外での開催となりましたが、たくさんの子供たちが楽しそうに削っていました。寒い日



11月26日 / 枕崎小学校バザー



12月18日 / 南つ子食育

12月2日 / 青鯉会忘年会



だったため、親御さん方も茶節を飲んで温まっていました。

枕崎市内のみなみッコで食育活動を行ってきました。

たくさんの生徒たちが、待ち遠しく待っているなかで、青鯉会の紹介をしたあとにカツくん、カコちゃんの登場でした。生徒たちは、興味深く眺めているなか、鯉節の製造工程をパネルと鯉の人形を用いて説明し、その後、音楽を流して鯉節削り体験を行いました。生徒たちは、楽しそうに鯉節を削っていました。削りたての鯉節で茶節をみんな笑顔で飲んでいました。今回の食育活動で、手作りの大事さを更にも感じました。

12月23日／鹿児島おいどん市場宣

伝物販



一年間ご苦勞様でした

若鯉会会長 山崎 隆広



年だと思えます。

毎年の活動の内容としましては、五月のかつお祭り削り大会、産地入札即売会、食育活動、イベント参加による鯉節のPR活動等があります。年代が若手で、元気のある会ですが、昨年新入会員の加入がなくイベント参加するには厳しい状況でした。

しかし本年度は、二名の新入会員が加わり十二月二十三日に鹿児島市内のおいどん市場さんの方で、宣伝販売イベントを行うことが出来ました。年末で忙しい時期でしたが、加工組合の方、関係各所様、また協力してくれた若鯉会の皆様にとっても感謝しています。

私自身、四月会長就任から、今期はどうしたら、どうすれば良いかと考えていました。その際には、いつも後輩達の意見や、先輩方のアドバイスを耳を傾けつつ、最終的には自分で決断する。ということがいかに大変か思い知らされました。そういった状況を明確に決断するということが、大変でしたが色々な経験を積ませていただき、私自身とても勉強になりました。

青鯉会、若鯉会を通して、先輩方や同世代の同じような考えや悩みを持った仲間、若鯉会の皆様と一緒に共有できた時間は十年、二十年後の良きライバルであり素晴らしい仲間になっていくものと感じます。

最後になりますが、この一年間皆様に励まされ、またいつも皆様に感謝していた一年だと思えます。本年度の若鯉会会長をさせて頂き、活動を通してたくさんの事を考え自分自身多少は成長できたものと思えます。微力ながら例年同様に有意義な活動も出来たと思えます。また、次年度の若鯉会もまたさらに素晴らしい活動が出来るものと思えます。

残り三月まで引き続きご協力お願いします。そして次年度会長のご協力も宜しくお願いいたします。ありがとうございます。